

重留村下遺跡 5

— 第6次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1149集

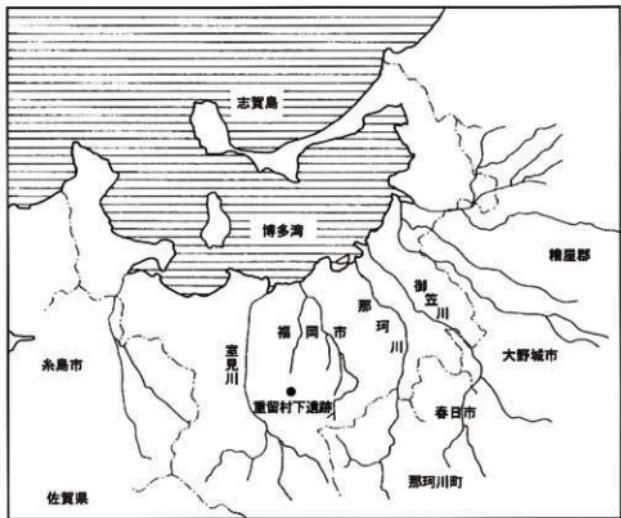
2012

福岡市教育委員会

しげ とめ むら した
重留村下遺跡 5

— 第6次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1149集



2012

福岡市教育委員会

序

海に開かれたアジアの交流拠点都市づくりを目指す福岡市は、大陸文化の受入口として古来より繁栄してきました。市内には貴重な文化遺産が数多く残されています。それらを保護し、後世に伝えることは私たちの義務であります。

市内には調査を実施した本遺跡を初め、数多くの遺跡が分布しております。本市教育委員会では、開発によってやむをえず失われる遺跡については、事前に発掘調査を実施し、記録保存によって後世に伝えるよう努めています。

本書は、本市が行う一般国道263号線交通安全対策事業に先立って、平成22年度に実施した重留村下遺跡第6次調査の成果を報告するものです。調査では古代の瓦を伴う溝や、大型建物の柱穴などを検出し、重留地区の古代についての新知見を得ることが出来ました。本書が、市民の皆様の文化財保護に対するご理解の一助となるとともに、学術研究、文化財保護の普及啓発活動に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、ご協力をいただきました道路下水道局建設部西部道路課をはじめとした、関係各位に対して、厚く感謝の意を表します。

平成24年3月16日

福岡市教育委員会
教育長 酒井 龍彦

凡 例

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が一般国道263号線交通安全対策事業に伴い、福岡市早良区重留6丁目地内で、平成22年(2010)度に発掘調査を実施した重留村下遺跡第6次調査の報告書である。
- (2) 発掘調査は上記の主体により行われ、調査の担当は山崎龍雄が行った。
- (3) 遺構・遺物の実測と遺構写真撮影は山崎が行い、遺物の撮影は力武卓治(埋蔵文化財センター文化財教育普及専門員)が行った。
- (4) 本書に使用した図面の作成は山崎が行った。
- (5) 本書に使用した方位は磁北であり、真北とは $6^{\circ}18'$ 西偏する。また、国土座標系の数値は世界測地系の数値である。
- (6) 本書Fig.2の調査地点位置図は平成6年3月作成の「福岡市文化財分布地図 西部1」を使用した。
- (7) 土層・遺物の色調の記録については新版標準土色帖を使用した。
- (8) 調査に係る記録類・出土遺物は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、活用していく予定である。
- (9) 本書の執筆・編集は山崎が行った。

本文目次

第1章はじめに	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の組織	1
第2章立地と歴史的環境	2
1 立地と各調査の概要	2
2 歴史的環境	3
第3章調査の記録	4
1 調査の概要	4
2 I区の調査	4
3 II区の調査	7
4 III区の調査	10
5まとめ	14

挿図目次

Fig. 1 重留村下遺跡と周辺の遺跡 (1/25,000)	2
Fig. 2 重留村下遺跡第6次地点位置図 (1/5,000)	3
Fig. 3 調査区配置図 (1/1,000)	4
Fig. 4 I区遺構全体図 (1/100)	5
Fig. 5 I区各壁土層図 (1/60)	6
Fig. 6 I区出土遺物 (1/3)	7
Fig. 7 II区遺構全体図 (1/100)	8
Fig. 8 II区各壁土層 (1/60)	8
Fig. 9 II区出土遺物 (1/3・1/4)	9
Fig. 10 III区遺構全体図 (1/100)	12
Fig. 11 SP0217・0234、SK0241 (1/30)	13
Fig. 12 SP0212・0215・0216 (1/30)	14
Fig. 13 III区各壁土層 (1/60)	15
Fig. 14 III区出土遺物 (1/3)	16

図版目次

PL. 1 (1) 第6次調査区全景 (南から) (2) I-1区全景 (北から) (3) I-2区第1面全景 (北から)	17
PL. 2 (1) I-3区第1面全景 (北から) (2) I-2区第2面全景 (北から) (3) I-3区第2面全景 (北から)	18
PL. 3 (1) II区全景 (北から) (2) II-1区第1面全景 (南から) (3) II-1区第2面全景 (北から) (4) II-1区西壁土層 (東から)	19
PL. 4 (1) II-2区第1面全景 (南から) (2) II-2区第2面全景 (南から) (3) II-2区西壁土層 (東から) (4) SD0113検出状況 (北から) (5) SD0113遺物出土状況 (東から)	20
PL. 5 (1) III-1区全景 (南から) (2) III-2区第1面全景 (南から) (3) III-2区第2面全景 (南から)	21
PL. 6 (1) III-3区第1面全景 (南から) (2) III-3区第2面全景 (南から) (3) III-4区全景 (北から)	22
PL. 7 (1) III-2区西壁土層 (東から) (2) SD0209 (西から) (3) SP0212 (南東から) (4) SP0216 (西から)	23
PL. 8 (1) SP0217土層 (西から) (2) SP0234根石 (西から) (3) SK0241 (北から) (4) 各遺構出土遺物	24

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡市は現在一般国道263号線交通安全事業として、早良区重留6丁目地内で、交通混雑を緩和し安全を図るため、道路拡幅を行っている。平成20年10月6日付け道西第205号で、道路下水道局道路整備部西部道路整備課（現 建設部西部道路課）より、計画地内における埋蔵文化財の事前審査依頼が提出された。これを受けて埋蔵文化財の審査を行った結果、計画地内に重留村下遺跡・重留辻遺跡・熊本遺跡の3遺跡が範囲にかかることから、確認調査を行い、遺跡が確認された地区については協議を行い調査を行う必要があるとして回答した。平成21年6月3日、用地取得が終了し試掘が可能な部分について試掘調査を行った。その結果一部で遺構を検出したので、その範囲について発掘調査が必要であるとして協議を行い、平成22年度に道路下水道局より調査費用の令達を受けて発掘調査を行うこととなった。本調査は平成22年（2010）8月3日～10月8日まで行い、報告書作成の整理作業は平成23年度に行った。

調査にあたっては、道路下水道局建設部西部道路課から多大の協力を賜った。また周辺住民の皆様には調査期間中ご理解を得、調査を無事に進めることが出来ました。文末ではありますが、記して感謝の意を表します。

2. 調査の組織

調査の組織は以下のとおりである。

調査委託	福岡市道路下水道局建設部西部道路課		
調査主体	福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財第2課		
調査総括	文化財部埋蔵文化財第2課長	田中 善夫	
	埋蔵文化財第2課調査第2係長	菅波 正人	
事務担当	埋蔵文化財第1課管理係	古賀 とも子	
事前審査担当	埋蔵文化財第1課事前審査係	阿部 泰之	
調査担当	埋蔵文化財第2課主任文化財主事（現 埋蔵文化財センター） 山崎 龍雄		
調査作業	浅井伸一 石井清子 真田弘二 原田由紀子 濱野幸男 平江裕子		
整理作業	長尾紀久子 増永好美		

遺跡略号	調査番号	調査地名	申請面積	調査面積	調査原因	調査期間	調査担当
SGM-6	1018	福岡市早良区重留6丁目地内	1,600m ²	131m ²	道路拡幅	2010.8.3～ 10.8	山崎龍雄

第2章 立地と歴史的環境

1. 立地と各調査の概要

重留村下遺跡は福岡市の南西部の早良区内陸部に位置する。国土地理院の1/25,000地図（福岡西南部）で右側より15.5cm、上側より26.5cmの位置にある。遺跡は室見川が南北に貫流する早良平野内陸南東部油山山塊から北西に樹枝状に派生する低位段丘の砂礫台地上に立地する。遺跡の範囲は南北長約750m、東西幅約330mで、西側には金屑川が流れ遺跡の西限となる。遺跡の標高は24～36mを測る。遺跡の現況は集落と農地が混在している。

今回調査した第6次調査地点はこの重留村下遺跡の南西側に位置し、周辺の調査地点としては第3次・5次調査区がある。以下各調査区の概要を記す。

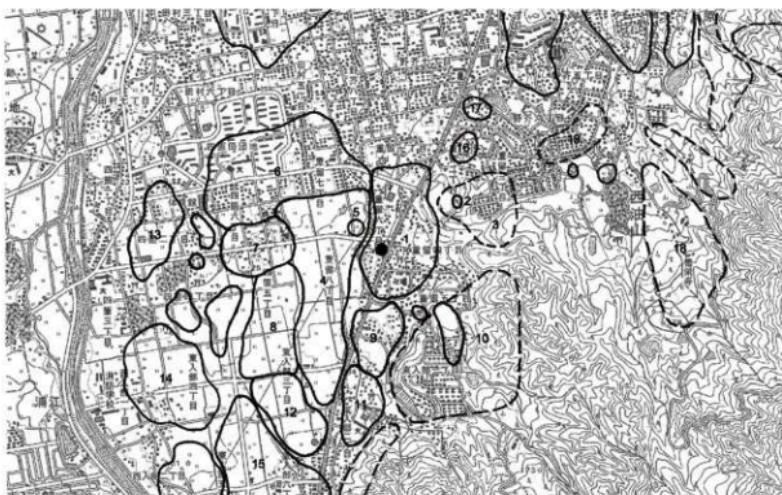
第1次調査：道路新設に伴う調査。弥生時代から中世にかけての集落の調査。

第2次調査：店舗建設。弥生時代土坑、古墳時代の堅穴住居跡などの調査。

第3次調査：個人住宅建設。古墳時代前期の堅穴住居跡などの調査。

第4次調査：店舗兼共同住宅。古墳時代から中世の集落の調査。

第5次調査：古墳時代の流路。古代から中世の集落の調査。



1. 重留村下遺跡 2. 重留瓦窯跡 3. 重留古墳群 4. 重留遺跡 5. 押塚古墳 6. 四箇東遺跡
8. 四箇船石遺跡 9. 熊本遺跡 10. 三郎丸古墳群 11. ヒワタシ遺跡 12. 岩本遺跡 13. 四箇大町遺跡
14. 清木遺跡 15. 東入部遺跡 16. 菊田寝棺遺跡 17. 岩隈寝棺遺跡 18. 西油山古墳群 19. 山崎古墳群

Fig.1 重留村下遺跡と周辺の遺跡 (1/25,000)

2. 歴史的環境

重留村下遺跡のある早良平野内陸部の歴史的環境について述べる。周辺は平野部で圃場整備に伴う調査や、団地造成など各種の大規模調査が過去に行われている地域である。旧石器時代から縄文時代は野芥遺跡第7次調査、東入部遺跡でナイフ形石器・細石器が出土し、縄文時代ではクエゾノ遺跡で早期の遺物が出土し、四箇遺跡や田村遺跡では前期轟B式遺物や曾畠式土器などの遺物やドングリピットなどの遺構が出土している。中期～後期では四箇遺跡があり、埋甕や竪穴住居など生活遺構や特殊泥炭層が調査されている。晩期では重留遺跡で竪穴住居などが調査されている。

弥生時代遺跡の分布は前時代とほぼ重なる。弥生時代開始期の早期から前期にかけては東入部遺跡・野芥遺跡など数は少ないが、前期後半から規模が拡大し、田村遺跡や東入部遺跡などに集落や壇場墓地群が調査され、中期の東入部遺跡では副葬品を持つ壇場墓が出土している。また平成22年に調査された室見川左岸の長峰岸田遺跡でも副葬青銅器を多数持つ壇場墓群が検出された。後期は飯倉D遺跡や飯倉F遺跡で集落遺構が検出されている。

古墳時代になると、各遺跡で朝鮮半島系の影響を受けた遺構・遺物が出土する。梅林遺跡で朝鮮半島系のオンドル住居が検出されている。前方後円墳が数は少ないが平野部と丘陵部に築かれる。本遺跡の西側には中期の埴輪を伴う押塚古墳が築かれる。押塚古墳は全長70mを測り、早良平野で最大の古墳である。後期には油山山塊山麓部に群集墳が多数築かれる。遺跡周辺の主なものとして重留古墳群、三郎丸古墳群、荒平古墳群などがある。クエゾノ古墳では多量の鉄滓や鍛冶工具が出土した。また山麓部の重留地区では須恵器窯跡が1基調査されている。

古代から中世は、野芥遺跡で大型建物群や円面鏡・綠釉陶器、重留遺跡で円面鏡、東入部遺跡で大型建物群や唐三彩が出土しており、官衙的性格を持った遺構群が確認されている。中世は大規模な集落が田村遺跡・次郎丸遺跡・清末遺跡などで調査されている。油山山麓では山岳寺院の天福寺があり、戦国時代筑前守護の大内氏・大友氏の時代、荒平山山頂中心に早良郡を治めた安楽平城が築かれる。

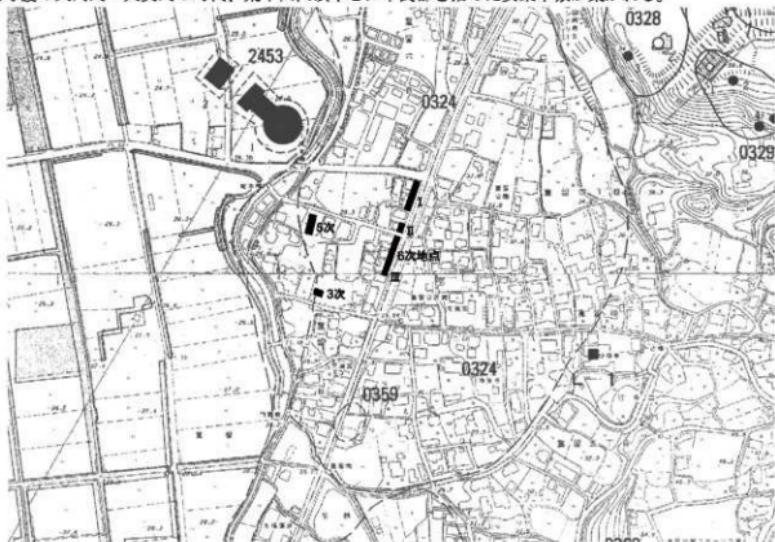


Fig.2 重留村下遺跡第6次地点位置図 (1/5,000)

第3章 調査の記録

1. 調査の概要 (Fig. 3)

調査地は早良区重留6丁目地内、国道263号線の西側歩道拡幅部分である。南北に長く、調査対象範囲は南北長約90m、東西幅4mである。調査地の現況は宅地または農地であった。用地買収が終了し、試掘調査で遺構を検出した部分の調査である。調査区は3か所に分けた。これは調査対象範囲が道路や、一部舗装が既に終了している部分を含むためである。3区に分けた調査区は北からI～III区とした。調査は廃土が場内処理であったため、調査区内での分割調査となり、予想外に調査の手間を取った。調査は2010年8月3日から開始し、10月8日に終了した。各調査区の面積はI区45m²、II区27.4m²、III区58.16m²で総面積130.56m²である。以下各区の概要を述べる。

2. I区の調査

1) I区の概要 (Fig. 4・5, PL. 1・2)

I区は北側調査区で調査対象範囲は南北長約15m、幅3.3mの調査区である。北側は道路、南側は舗装済み、西側は畑地の部分である。この部分は水田を埋立た畑地で、真砂の盛土が厚くされていたので、遺構面は1mと深く、大量の廃土の場内処理が難しく、3分割の調査となった。北側を1小区、南側を2小区、中央部を3小区とする。遺構は黒褐色～黒色土で確認し、だめ押して明黄褐色土まで下げ、遺構を確認したので2面の調査となった。主な検出遺構は溝2条。下層遺構面で黒色土のピット又は不定形状の遺構が多数確認出来たが、遺物の出土はなく、自然の痕跡と考える。

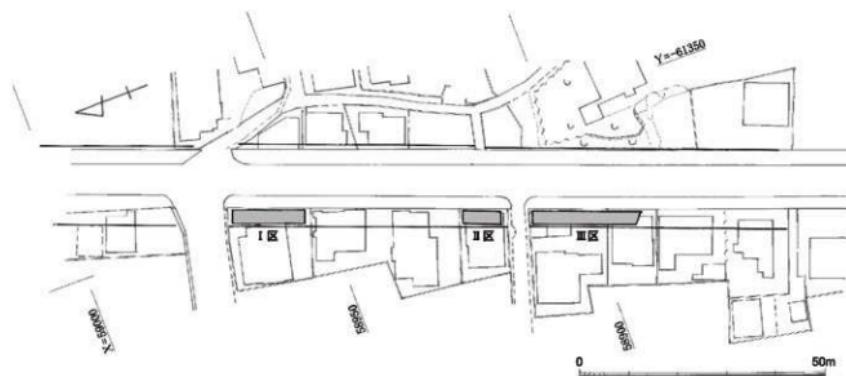


Fig.3 調査区配置図 (1/1,000)

2) 遺構と遺物

① 溝

SD0001 (Fig. 4・6)

I-1～2 小区で検出した主軸を磁北に取る南北溝。確認規模は長さ 8m、幅 2m、深さ 0.6m を測る。壁の立ち上がりは直に近く、底面は平坦を呈す。埋土は水平堆積で、上層は黒褐色土で余り締まらず、下層は上層土に明黄褐色土ブロックを含む。

出土遺物 古墳時代～古代の土師器などの小片を少量含む。1 は古墳時代の土師器把手。表面は摩滅するが指押え仕上げ。色調は鈍い黄褐色を呈し、胎土は 1～5mm 石英・長石砂粒などを多く含む。1 小区上層出土。2 は土師質の平瓦小片。残存長 11.6cm、幅 9.5cm を測る。凹面で細かい布目、凸面に縄目叩きを加える。色調は鈍い黄褐色を呈し、胎土は精良。1 小区上・中層出土。

SD0002 (Fig. 4・6)

I-2～3 小区で検出した南北方向の溝。確認規模は長さ 11m、溝幅 0.65～0.9m、深さ 0.4m を測る。埋土は灰黄褐色粗砂混じり土 1 層である。埋土から近世以降のもの。

出土遺物 古墳時代～中世にかけての土師器・須恵器、近世の国産陶磁器を少量出土。3 は土師器窓口縁部片。器壁はやや摩滅するが、口縁部ヨコナデで外面細かいタテハケ目を加える。胎土精良、焼成良好。古代前期頃の甕か。4 は京焼系陶器の蓋 1/2 片。復元口径 9.0cm を測る。光沢を持つ透明釉の上に黄緑色釉がかかる。5 は白磁小杯。外面タテの連続する沈線が入る。高台内施釉。胎土は灰白色で精良。

② 遺構面出土遺物 (Fig. 6, PL. 8-4)

6 は土師器小皿 1/5 片。復元口径 8.0cm、器高 0.9cm を測る。体部は回転ヨコナデで、外底部板状圧痕が残る。7・8 は縄文土器。7 は後期末～晩期初頭御料式期の精製の浅鉢口縁部。胎土に 2mm 以下石英・長石粒子を含む。焼成は良好。8 は深鉢の口縁部。外面貝殻条痕、内面は丁寧なナデ。胎土は 2mm 以下石英・長石砂粒多く混入。第 1 面下黒褐色土出土。9 は陶器碗底部 1/5 片。復元底径 5.2cm を測る。体部から内面には浅黄色釉がかかる。近世後半以降の新しい時期。表土・遺構面出土。

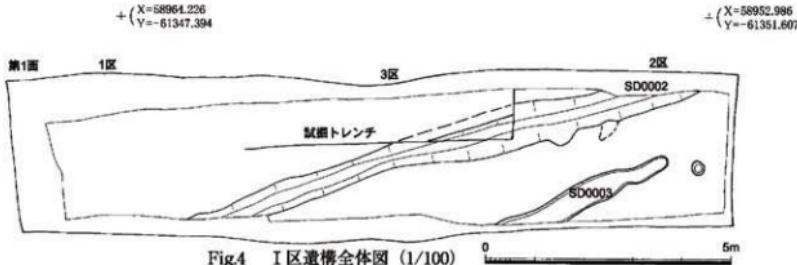
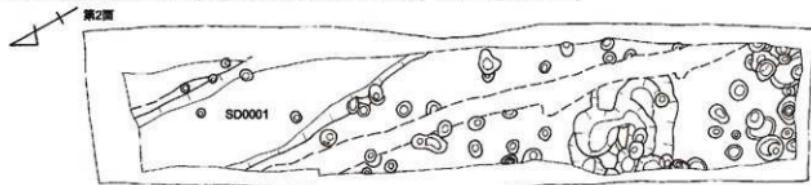


Fig.4 I 区遺構全体図 (1/100)

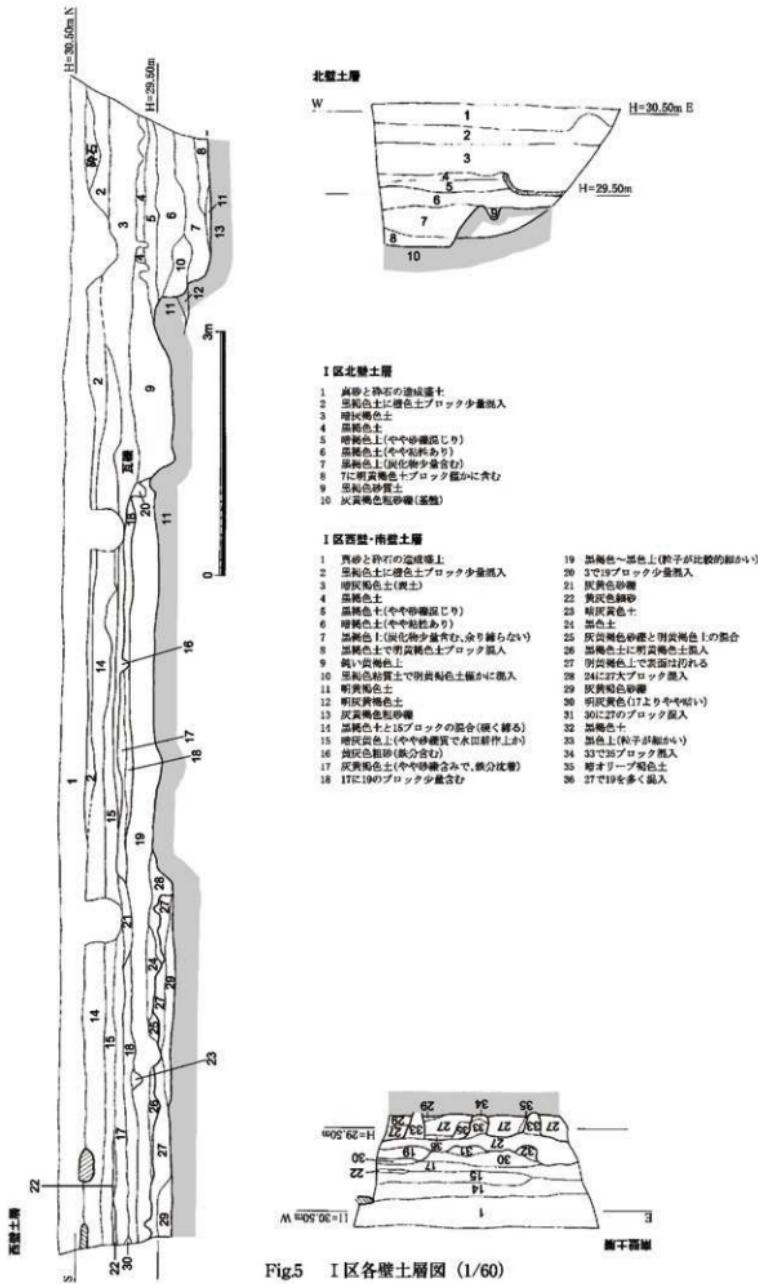


Fig.5 I区各壁土層図 (1/60)

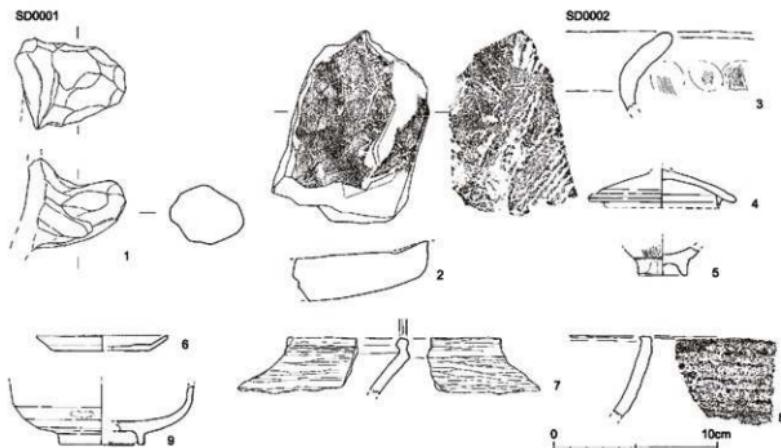


Fig.6 I区出土遺物 (1/3)

3. II区の調査

1) II区の概要 (Fig. 7・8, PL. 3・4)

II区は中間の調査区で調査対象範囲は南北約8m、幅3mである。北側は舗装済み、南側は道路、西側は住宅の部分である。調査は場内反転で、北側をII-1小区、南側をII-2小区に分割して行った。遺構面は地表下0.7m前後で検出した。埋土の状況は上層から0.4~0.45mの盛土(客土)、0.3mの黒褐色土である。遺構は粘性がやや強い黒褐色土(粗砂混じり)で検出したが、この面は遺物を少し含んでいたので、更に0.15m下の明黄褐色土まで掘り下げ遺構の確認だめ押しを行った。その面では大半が自然の凹凸で、遺物を含む明確な遺構は確認出来なかった。遺構面の主体は上面である。この小区で検出した遺構は溝3条、土坑1基、ピットである。

2) 遺構と遺物

① 溝

SD0102 (Fig. 7)

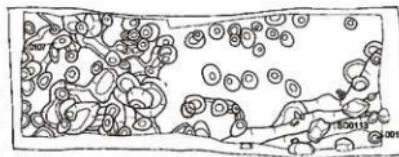
II-1小区で検出した小溝。確認長2.8m以上、幅0.4~0.5m、深さ0.15mを測る。埋土は黒色土である。出土遺物は少なく、黒曜石の剥片が1点出土。

SD0113 (Fig. 7・9, Pl. 4-3~5・8-4)

II-2 小区で検出した溝。上面に砂礫混じりの鈍い黄褐色土が覆っており、それを掘り下げる遺構を確認した。溝方向は I 区溝より少し東へ振れるか。確認規模は一部であり、不明であるが、4 m 道路を隔てた III 区では同溝の続きが検出ができないので、溝幅は南側道路内の範囲で収まる規模であろう。深さは 1.1m を測る。溝内には上層を中心に拳大から最大長 0.5~0.6m の花崗岩礫石が出土している。埋土は上層が鈍い黄褐色土、中層は黒褐色土、下層は黒色土が主体である。

出土遺物 古墳時代～古代にかけての土師器・須恵器細片、礫石に混じって平瓦などが少量出土。

1 は平瓦。破片から復元した。復元規模は幅 22.6 cm、長さ 36.0 cm、厚さ 1.2~1.6 cm を測る。凹面には細かいハケ目と斜めの工具ナデ痕で細繩痕跡の浅い溝がある。凸面は縄目叩き後、工具による斜めハケ目。各側面はケズルが、下端部は指押えで埋む。色調は暗オリーブ褐色を呈し、胎土は精良。焼成は良好。



第2面

- X=58021.143
Y=-61363.508

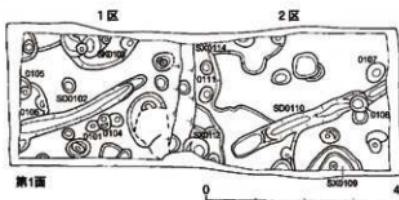


Fig.7 II 区遺構全体図 (1/100)



Fig.8 II 区各壁土層 (1/60)

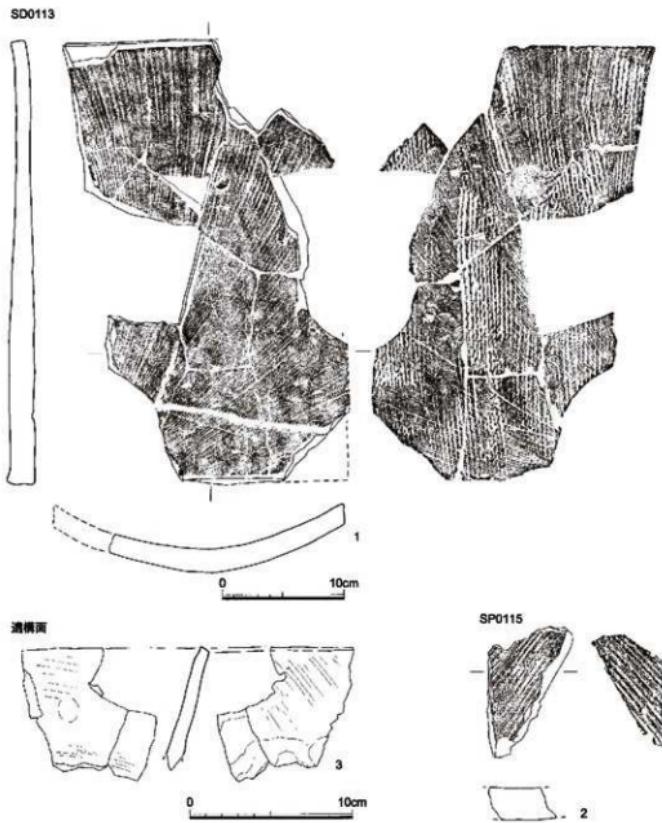


Fig.9 II区出土遺物 (1/3・1/4)

② 土坑

SK0103 (Fig. 7)

II-1 小区で検出した円形土坑。東壁に一部かかる。規模は東壁で1.55m、深さ0.3mを測る。上層に炭化物を多く含んでいた。複数の造構切り合いの可能性もある。

出土遺物は土師器などの細片が少量出土した。図示出来るものはない。

③ ピット・遺構面出土遺物 (Fig. 7・9)

ピット状遺構は埋土が黒褐色粘質土又は黑色粘質土で、30基以上検出した。遺物を含むものは少なく、遺物も細片が多く図示出来るものは少ない。

2はSP0115出土。半瓦細片で残存長7.9cm、幅5.1cmを測る。調整は凹面細かい布目とナデ、凸面粗い工具ナデで1と同形態の瓦。3は遺構面出土。瓶の口縁部片か。調整は外側ナデ後斜めハケ目、内面は斜めハケ目でやや摩滅する。口端部はヨコハケ目。色調は橙色を呈し、胎土は3mm内石英・長石粒多量混入。

4 . III区の調査

1) III区の概要 (Fig. 10・13、PL. 5-7)

III区は南側調査区で調査対象範囲は南北約23m、幅2.8mの調査区である。調査区内北側は西に隣接する空家への出入り口、南側は事業所駐車場の出入口であったので、調査区を4分割して調査を実施した。調査は中央部から実施し、中央部をIII-1区、III-2区、北側をIII-3区、南側をIII-4区と4小区に分割して行った。遺構面は、北側2・3小区は表土下0.3~0.4mの整地面で遺構を確認したので、基盤面での調査を含め、調査は2面で行った。南側III-1・4小区は明黄褐色土まで掘り下げた1面の調査である。埋土の状況は地表から0.3~0.4mの碎石・盛土(客土)、北側はこの面で遺構を確認した。西壁土層を見るところ、南小区でも土層の繋がりが認められるので、本来は南側も遺構は上面で確認出来たものと思われる。主な遺構は大型建物のものと思われる柱穴5基、溝1条、土坑4基、柱穴・ピットなどである。近世以降の擾乱・住居の埋設管も一部残っていた。

① 溝

SD0209 (Fig. 10・14、PL. 7-2)

2小区で検出した蛇行する溝。一部の検出で詳細は不明。溝幅は最大で1.2mを測る。他遺構の切り合いか底面は部分的に凹凸がある。埋土は上層は暗灰黄色土、下層は黒褐色土を主体とする。

出土遺物 弥生時代から古代にかけての土器細片を少量含む。1は土師器の楕型の鉢口縁部片。復元口径15.0cmを測る。色調は橙色を呈し、胎土は精良、焼成は良好。

② 建物柱穴

平面形状が大型の隅丸長方形を呈す柱穴・土坑で5基検出した。断面観察をすると柱痕跡が認められたので、細長い調査区内で建物としては纏められないものの、掘立柱建物の柱穴として報告する。

SP0212・0215 (Fig. 10・12・14、PL. 7-3)

2小区で検出した柱穴。柱穴の重複かSP0215と重なる。SP2012の規模は長軸長1.53m、短軸幅1.20m、深さ0.90mを測る。埋土は鈍い黄褐色土を主体とするが、中層から黒褐色土の柱痕跡が確認出来た。柱痕跡は底面迄達している。柱径は15cmほどである。柱穴内には根石と思われる石が残っていた。

SP0215は北側で重複する柱穴で0.5m程張り出す。SP0212とほぼ同規模の柱穴と思われるが、深さはSP0212より20cmほど深い。SP0215の埋土は灰褐色砂礫混じり土と明黄褐色土・黒色土ブロックの混合で、人為的に埋めた状況を示す。SP0215の埋土状況から、SP0215を埋めた跡、SP0212柱穴を掘ったものであろう。

出土遺物 SP0212は弥生時代から古代にかけての弥生土器・土師器・須恵器細片・不明鉄製品が少量出土。SP0215は弥生土器甕片が出土している。

2はSP0215出土。弥生土器甕口縁部1/4片。復元口径15.0cmを測る。内外面ハケ目。口縁部に一部赤色顔料の痕跡がある。色調は鈍い黄橙色を呈し、胎土に2mm以下石英粒を含む。焼成は良好。弥生時代後期頃のものか。遺構面と第1面下黒色土の遺物と接合しており、混入品と思われる。

SP0216 (Fig. 10・12 PL. 7-4)

2小区第2面東壁にかかる柱穴。東壁断面で見ると、規模は上面で1.30m、深さは1.15mを測る。埋土は、掘り方は鈍い黄褐色土・黄橙色土ブロックや黒褐色土で人為的に埋めた状況を示し、柱痕跡は鈍い黄褐色土で締まっていない。また柱痕跡下に底より10cmほど浮いた面で長さ約30cm弱の扁平な根石があつた。

出土遺物 土器片や須恵器の細片が少量出土。図示出来たものはない。

SP0217 (Fig. 10・11, PL. 8-1)

2・3小区に西壁にかかる柱穴。断面から3基の柱穴の重複が確認出来たが、部分調査であるため、全容は不明である。重複関係からSP0217-A・-B・-Cとする。SP0217-Aは切り合いが一番新しく、規模は長さ0.7m、深さは0.8m程である。埋土は暗褐色土に明黄褐色土ブロック混入で締まらない。SP0217-Bは大型で長さ1.35m、深さ1.2mを測る。埋土は上層が黒色土、下層は黒色土と暗黄褐色土などの互層の水平堆積である。SP0217-Cは残存長0.7m程で、埋土は鈍い黄褐色土や黒褐色土、灰黄褐色土、暗褐色土などである。

出土遺物 弥生時代から古墳時代頃の土器の細片が少量出土。図示出来たものはない。

SP0234 (Fig. 10・11・14, PL. 8-2)

3小区で検出した西側に張出しを持つ土坑。当初は土坑として考えたが、底面近くで扁平な根石を検出したので柱穴とする。規模は長軸長0.98m、短軸幅0.93m、深さ0.85mを測る。埋土はほぼ水平堆積で、鈍い黄褐色土に鈍い黄橙色土や黒褐色土ブロックを混入する。根石は長さ約25cmの扁平な形状で、ほぼ水平な底面より10cmほど浮いた状況で検出している。

出土遺物 古代の土師器・須恵器などが少量出土。3は須恵器蓋1/8片。復元口径14.4cmを測る。調整は内外面ヨコナデ。色調は暗灰色を呈し、胎土は精良、焼成は良好。

③ 土坑

SK0241 (Fig. 10・11 PL. 8-3)

4小区南端で検出した不定形を呈す土坑。南側が調査区外で全容は不明。確認規模は長軸長1.48m、短軸幅1m以上、深さ0.6mを測る。底面にはピット状の瘤みが2基ある。埋土は黒褐色土で黄褐色地山土ブロック・粒子を混入する。

出土遺物 土器や須恵器の細片が少量出土。細片で図示出来るものはない。

④ 表土出土遺物 (Fig. 14)

4～6は4小区出土。4は土師器の蓋小片。色調は灰黄色を呈す。胎土は精良、焼成は不良。5は陶器の皿口縁部1/8片。見込みに鉄絵文様が描かれる。6は白磁皿底部。底部は蛇の目高台で、見込みに線彫りの文様がある。4は8世紀代、5・6は近世以降のもの。

第2面
第1面と同じ

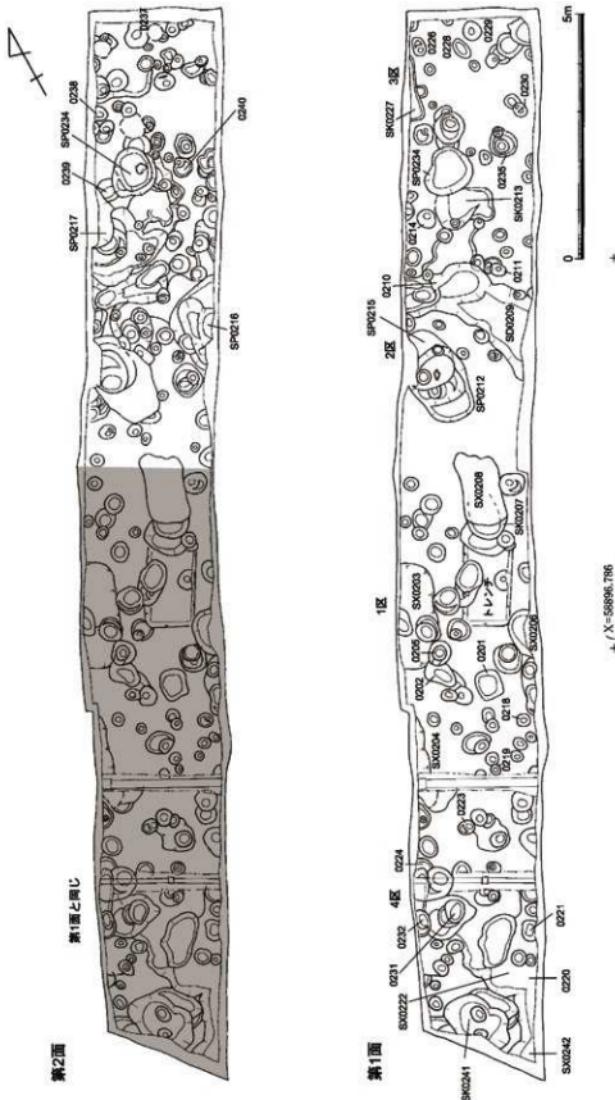


Fig.10 III区遺構全体図 (1/100)

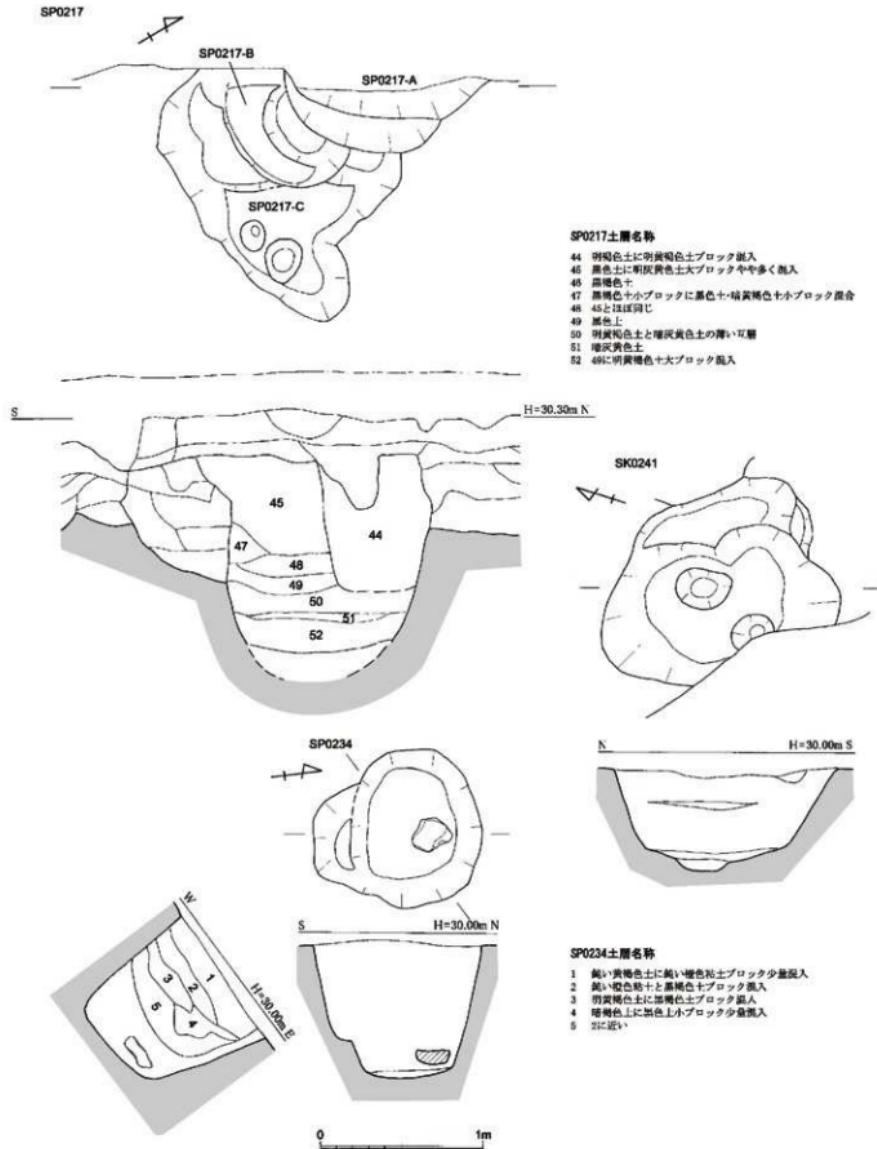
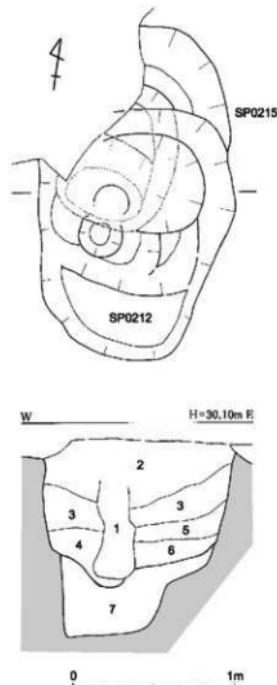


Fig.11 SP0217・0234、SK0241 (1/30)

SP0212・0215



SP0216

- SP0216土層名稱**
- 7 黒い黄褐色上に明黄褐色上ブロック少量混入
 - 8 黒い黄褐色上ブロックで跡らない
 - 9 8と同様色土の側合
 - 10 8と同様色土の側合
 - 11 黄褐色土
 - 12 黄褐色土ブロック
 - 13 黒い黄褐色土上(12よりやや暗い)
 - 14 11とコロッタや多く個人入
 - 15 11より少ブロック混入少ない
 - 16 8と11のブロック混入
 - 17 4と11のブロック少量混入

Fig.12 SP0212・0215・0216 (1/30)

5.まとめ

簡単ではあるがまとめを行う。今回は試掘調査のようなトレンチ調査であったが、遺構は3か所の調査区ですべて確認出来た。遺構の時期は出土した遺物が少ないので断定は出来ないが、古墳時代から中世頃の時期が主体であろう。周辺の第3次調査区では、未報告であるが古墳時代前期の竪穴住居跡が検出している。また第5次調査区では古墳時代の流路と中世集落が検出されており、本調査区周辺一帯には古墳時代から中世にかけての集落遺跡が広がっているものと思われる。I・II区で検出した南北方向に主軸を取る溝であるが、共伴する遺物が少なく、時期の確定はむずかしいが古代頃と思われる瓦が出土している。周辺に瓦を伴う遺構が存在したことが想定出来る。瓦を伴う遺構は官衙や寺院が考えられるが、重畠に残る伝承では『筑前国続風土記拾遺』に妙福寺、淨覺寺、真正寺、正覺寺址、毘沙門堂などの記録がある。それらの記述では正覺寺址の記述が注目出来る。本地点の遺構と関わりがあるのかは不明であるが、正覺

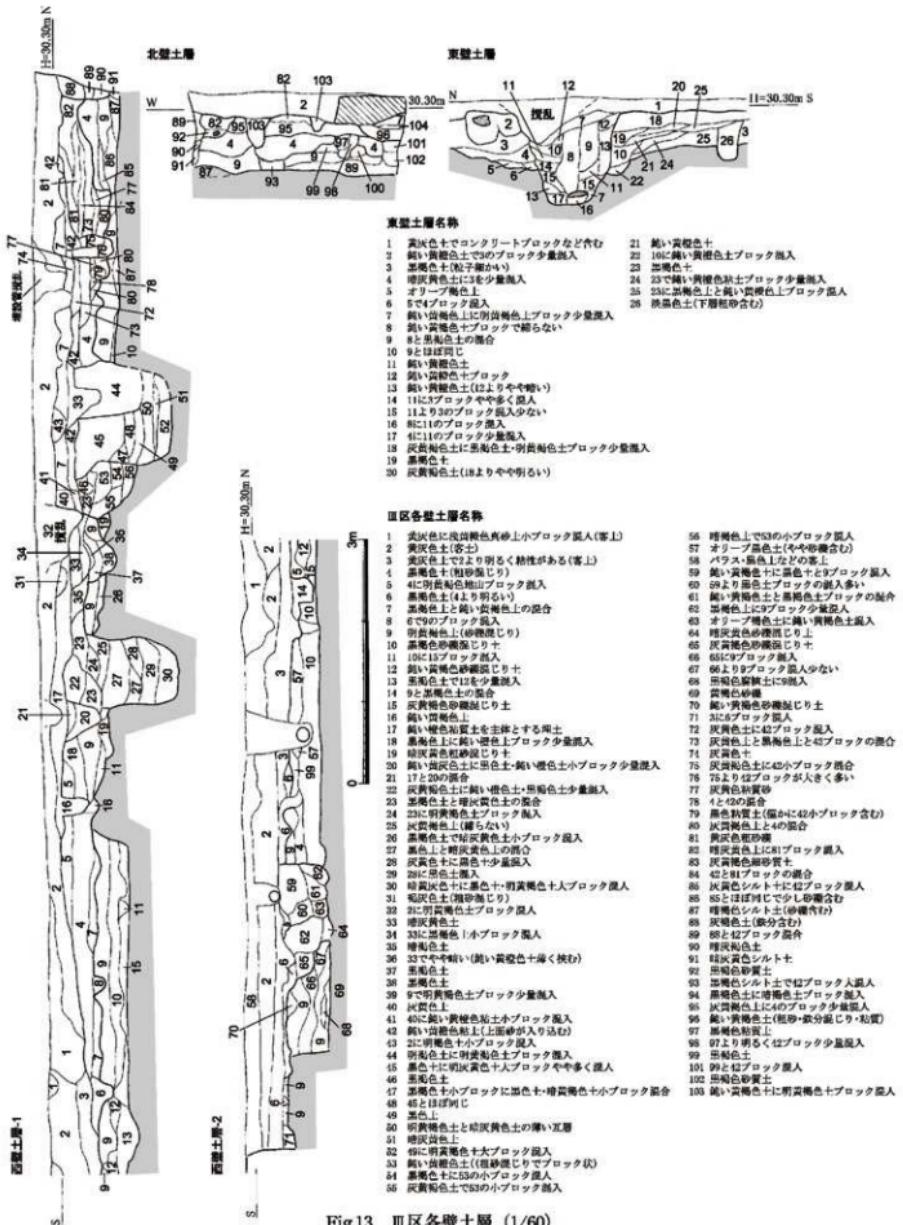


Fig.13 III区各壁土層 (1/60)

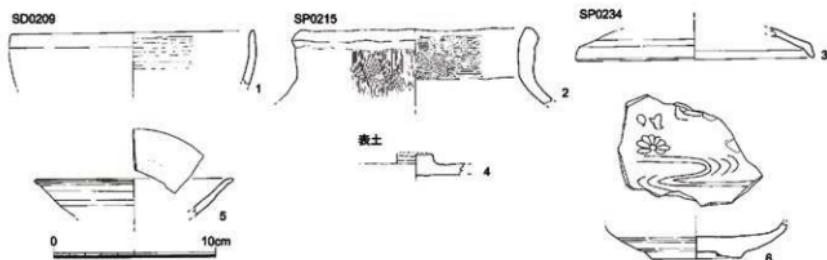


Fig.14 III区出土遺物 (1/3)

寺址は承天寺と関わりがあったようである。また正覺寺址は『福岡県地理全誌要目』には胃法山正覺寺址とある。同様の寺院遺構は北側に隣接する野芥遺跡第4次調査(参1)でも中世の寺跡らしき遺構群が確認されている。官衙的建物遺構としては上記の野芥遺跡第4次調査で大型建物群とともに、綠釉陶器、円面鏡や刻字された須恵器が出土している。南西側の重留遺跡では円面鏡などが出土している。いずれも古代「野解郷」との関わりが想定出来る。

III区で検出した大型柱穴であるが、狭い調査区で遺物も少ないので、確証は持てないが、気になるのは第3次調査で検出された大型土坑10数基である。2003年度の年報概要報告の写真では二列に並ぶ土坑列で、出土遺物は古式土師器片が少量出土しているが、土層観察から近・現代のものであるとしている。本調査区も表土直下の遺構面で検出しているので、それらと同様の時期の可能性もあるが、近・現代の遺物が出土しておらず、覆土の継まり方も新しいとは思えないでの、少量の遺物の時期に近いものとして報告した。今後の周辺の調査に期待したい。

参考文献

- 『野芥遺跡2』 福岡市埋蔵文化財調査報告書第675集 1998



(1) 第6次調査区全景(南から)



(2) I-1区全景(北から)



(3) I-2区第1面全景(北から)



(1) I-3区第1面全景(北から)
(2) I-2区第2面全景(北から)
(3) I-3区第2面全景(北から)



(1) II 区全景(北から)



(2) II-1区第1面全景(南から)



(3) II-1区第2面全景(北から)



(4) II-1区西壁土層(東から)



(1) II-2区第1面全景(南から)



(2) II-2区第2面全景(南から)



(3) II-2区西壁土層(東から)



(4) SD0113検出状況(北から)



(5) SD0113遺物出土状況(東から)



(1) III-1区全景(南から)



(2) III-2区第1面全景(南から)



(3) III-2区第2面全景(南から)



(1) III-3区第1面全景(南から)



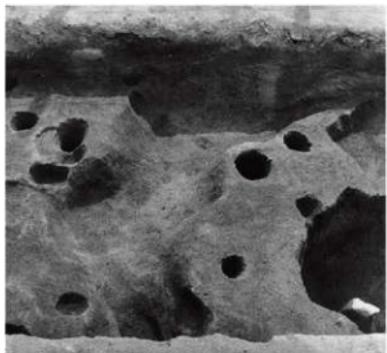
(2) III-3区第2面全景(南から)



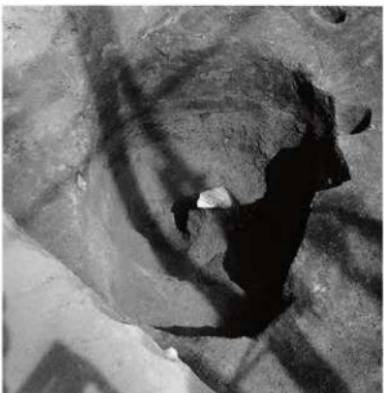
(3) III-4区全景(北から)



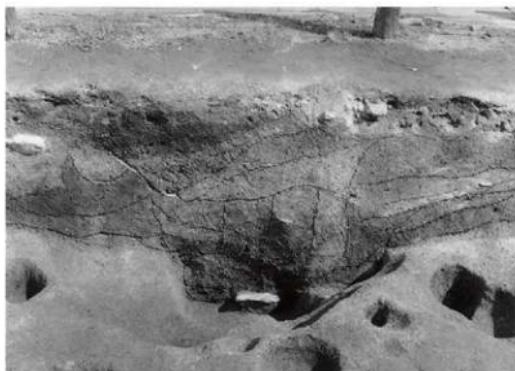
(1) III-2区西壁土層(東から)



(2) SD0209(西から)



(3) SP0212(南東から)



(4) SP0216(西から)



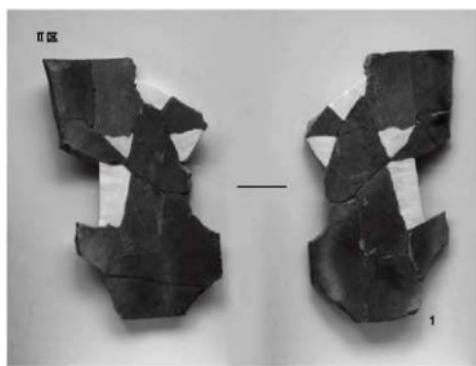
(1) SP0217 土屑(西から)



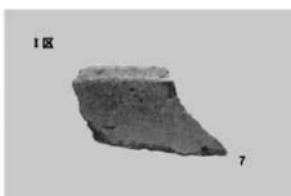
(2) SP0234 根石(西から)



(3) SK0241(北から)



(4) 各造構出土遺物(縮尺不統一)



報告書抄録

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1149集

重留村下遺跡5

—第6次調査報告—

平成24年3月16日

発行 福岡市教育委員会
福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 下川印刷 有限会社
福岡市東区松島1丁目46-14

